

1 平面ベクトル・複素数

次の演習 1.1 から演習 1.4 までのうち 3 つを選んで解け. (時間が余ったら残りの 1 つも解いてください. それを今回の $+\alpha$ の問題とします.)

演習 1.1 $\mathbf{a}_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ -3 \end{pmatrix}$, $\mathbf{a}_2 = \begin{pmatrix} 2 \\ 4 \end{pmatrix}$ とする. このとき, 次の (1) ~ (3) のベクトルが $c_1\mathbf{a}_1 + c_2\mathbf{a}_2$ ($c_1, c_2 \in \mathbb{R}$) の形 (\mathbf{a}_1 と \mathbf{a}_2 の線形結合) に表せるかどうかを調べ, もし表せるならば c_1, c_2 にあたる数を求めよ.

$$(1) \begin{pmatrix} 5 \\ 3 \end{pmatrix} \quad (2) \begin{pmatrix} -1 \\ 4 \end{pmatrix} \quad (3) \text{基本ベクトル } \mathbf{e}_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix}, \mathbf{e}_2 = \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \end{pmatrix}$$

演習 1.2 $\mathbf{a}_1 = \begin{pmatrix} -2 \\ 1 \end{pmatrix}$, $\mathbf{a}_2 = \begin{pmatrix} 4 \\ -3 \end{pmatrix}$, $\mathbf{a}_3 = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \end{pmatrix}$ とする.

(1) $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2$ が \mathbb{R}^2 を張ることを示せ. (任意の $x \in \mathbb{R}^2$ に対して $x = c_1\mathbf{a}_1 + c_2\mathbf{a}_2$ となる $c_1, c_2 \in \mathbb{R}$ が必ず存在することを示せ.)

(2) $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3$ のうちどの 2 つも線形独立になることを示せ.

(3) $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3$ は線形独立か線形従属かを述べよ.

演習 1.3 ベクトル $\mathbf{a} = \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \end{pmatrix} \neq \mathbf{0}$ に対して, \mathbf{a} に直交し原点を通る直線の方程式を書け. (根拠も述べること.)

複素数 z の偏角を θ とすると, z は

$$z = |z|(\cos \theta + \sqrt{-1} \sin \theta) \quad (= |z|e^{\sqrt{-1}\theta})$$

と書ける (最後はオイラーの公式による). このような複素数の書き方を極形式と呼ぶ.

演習 1.4 (1) $z_1 = |z_1|(\cos \theta_1 + \sqrt{-1} \sin \theta_1)$, $z_2 = |z_2|(\cos \theta_2 + \sqrt{-1} \sin \theta_2)$ とするとき, 三角関数の加法定理を用いて

$$z_1 z_2 = |z_1| |z_2| \{ \cos(\theta_1 + \theta_2) + \sqrt{-1} \sin(\theta_1 + \theta_2) \} \quad (= |z_1| |z_2| e^{\sqrt{-1}(\theta_1 + \theta_2)})$$

が成り立つことを示せ.

(裏面に続く)

(2) $\frac{1 + \sqrt{-1}}{\sqrt{2}}$, $\frac{-1 + \sqrt{-3}}{2}$, $\sqrt{3} - \sqrt{-1}$ を極形式で表して,

$$\left(\frac{1 + \sqrt{-1}}{\sqrt{2}}\right)^{100}, \quad \left(\frac{-1 + \sqrt{-3}}{2}\right)^{100}, \quad (\sqrt{3} - \sqrt{-1})^4$$

を求めよ.

(3) 3 乗して -1 になる複素数をすべて求めよ.